

中 期 経 営 計 画

(2018 年度～2020 年度)

2018 年 4 月

名古屋四日市国際港湾株式会社

目 次

I	はじめに	1
II	経営理念	2
III	経営方針	3
IV	基本戦略と主な取り組み	
1	コンテナターミナルの効率的運営・機能強化	4
2	港湾利用の促進	5
3	安全・安心、環境に配慮した施設提供	5
4	安定した事業運営	6
5	施設提供と外貿コンテナ取扱個数	7
V	財務に関する計画	8

1 はじめに

当社は、平成23年の港湾法改正により新たに創設された港湾運営会社制度を活用し、コンテナターミナルの効率的な管理運営を推進するため、平成29年5月17日に名古屋港管理組合及び四日市港管理組合により設立されました。

その後、平成29年9月1日に、国土交通大臣から伊勢湾で一つの港湾運営会社として指定され、名古屋港及び四日市港のコンテナターミナルの一元的な管理運営を開始しました。

伊勢湾の後背地には日本を代表する世界有数の自動車工業、航空・宇宙産業、石油化学産業、精密機械産業などが集積しています。これらの「ものづくり産業」が国際競争力をもって益々発展していくことは、我が国の経済・産業の発展、市民生活の向上につながるものと考えており、当社は、この地域の発展にロジスティクスの部分で貢献して参ります。

当社を取り巻く貿易・物流などの環境が大きく変動しているなか、伊勢湾（名古屋港・四日市港）のコンテナターミナルを利用者に選んでいただけるよう、当社の使命である効率的で競争力のあるファシリティとサービスを提供し、生産性の向上、競争力の強化に努めて参ります。

この度、2018年度から2020年度までの中期経営計画を策定しました。この計画に基づき、コンテナターミナルの生産性、効率性の向上に向けて、近年のAI、IoT、BDの活用などの情報化の進展、技術革新にも対応するなどイノベティブに行動し、地域に貢献できるよう取り組みます。

II 経営理念

わたしたちは、日本経済の中で大きな役割を担う中部圏の「ものづくり産業」を物流面でしっかり支え、地域経済の発展、市民生活の向上及び国際的な通商の伸展に貢献していきます。



III 経営方針

- お客様の要請に真摯に向き合うことでベストサービスを追求し、選ばれる港湾を目指します。
- 伊勢湾（名古屋港・四日市港）の港湾機能を最大限に利活用し、一元的な管理による相乗効果の創出、効率的な運営を推進します。
- 伊勢湾（名古屋港・四日市港）の先進性、優位性をアピールする営業戦略を展開します。
- 作業の安全性向上に配慮するとともに、大規模災害時にも物流機能が確実に確保できるように、安全・安心な施設提供に努めます。
- 温室効果ガス削減に配慮した施設提供など、環境負荷の低減に努めます。
- 持続可能な健全経営の視点に立脚し、柔軟かつ公正な会社運営を目指します。

IV 基本戦略と主な取り組み

1 コンテナターミナルの効率的運営・機能強化

(1) コンテナターミナルの効率的な管理運営

これまでに埠頭群として管理運営している飛島ふ頭・鍋田ふ頭、霞ヶ浦北・南埠頭、平成30年度に新たに埠頭群に加わる飛島ふ頭南側コンテナターミナルを含め、管理運営の効率化を推進します。

【主な取り組み】

- ◆ N C B コンテナターミナル (R1/R2 岸壁) の増深を見据え、飛島ふ頭南コンテナターミナル (93号/94号 岸壁) との連携の推進

(2) 船舶大型化への対応

N C B コンテナターミナルの岸壁改良工事 (直轄事業による増深・耐震強化) と並行して、N C B 及び飛島ふ頭南コンテナターミナルにおける船舶大型化への対応を進めます。

【主な取り組み】

- ◆ N C B コンテナターミナルのガントリークレーン (5号機、6号機) の大型化・免震化
- ◆ 飛島ふ頭南コンテナターミナルのガントリークレーン (1~3号機) を順次大型化

(3) 取扱能力の向上に向けた取り組み

港湾管理者と連携し、飛島ふ頭南及び霞ヶ浦北埠頭のコンテナターミナルのヤード拡張等に向けた検討を進めます。

(4) 情報化の進展・技術革新への対応

業容の変化及び適切なる拡大に常に留意しつつ、AI、IoT、BD、ICT（情報通信技術）、自動化など、情報化の進展・技術革新の動向に注視し、関係者と連携しながら活用方策を検討し、伊勢湾（名古屋港・四日市港）の強みであるターミナルシステムの機能強化、管理運営の効率化に取り組みます。

2 港湾利用の促進

(1) 利用促進に向けた取り組み

港湾管理者、利用促進協議会、商工会議所等と連携し利用促進に取り組みます。

【主な取り組み】

- ◆ 国内外へのポートセールスの実施
- ◆ 荷主や船社の動向やニーズの把握に努め、営業戦略に反映

3 安全・安心、環境に配慮した施設提供

(1) 防災・減災への取り組み

常に安全性向上を意識した施設提供に努めるとともに、大規模災害発生時においても物流機能の早期復旧が可能となるよう、国、港湾管理者等と連携し、耐震・免震施設の整備や事前準備に取り組みます。

【主な取り組み】

- ◆ NCBコンテナターミナルのガントリークレーン（5号機、6号機）の大型化・免震化（再掲）
- ◆ 名古屋四日市国際港湾株式会社事業継続計画（BCP）の策定と運用

(2) 環境負荷低減への取り組み

省エネ技術の進展に対応した設備を積極的に採用するなど、環境に配慮した施設提供に努めます。

4 安定した事業運営

(1) 財務基盤の強化

計画的な設備投資、コスト低減に努めるとともに、資金調達については港湾運営会社のメリットである無利子貸付金制度を最大限利用していきます。

【主な取り組み】

- ◆ 中長期の収支シミュレーションに基づく計画的な設備投資
- ◆ コスト低減に向けた発注・契約手法の検討
- ◆ 国による港湾運営会社に対する支援策の継続・拡充の要請

(2) 運営体制の強化

社内事業部の連携、人材の継続的確保・育成により、運営体制を強化します。

【主な取り組み】

- ◆ 伊勢湾（名古屋港・四日市港）の一元的な管理運営による相乗効果を高めるため、名古屋事業部・四日市事業部の緊密な連携体制を強化
- ◆ 事業運営に必要なノウハウを有する人材の継続的確保・育成
- ◆ 国内外の港湾及びその運営主体等との交流の推進

(3) コンプライアンスの徹底

公共性の高い港湾施設を建設、管理運営する事業主体としての社会的責任を重視し、コンプライアンスの徹底、公正な事業活動を推進します。

5 施設提供と外貿コンテナ取扱個数

(1) 施設提供

		2017 年度	2020 年度
岸壁	(バース)	13	15
コンテナヤード	(千㎡)	1,065	1,384
ガントリークレーン	(基)	23	23

(2) 外貿コンテナ取扱個数

		2017 年度	2020 年度
外貿コンテナ取扱個数	(万 TEU)	281	310

V 財務に関する計画

【損益計算書】

(単位：千円)

科 目	2017 年度 見込み額 (第 1 期)	2018 年度 計画額 (第 2 期)	2019 年度 計画額 (第 3 期)	2020 年度 計画額 (第 4 期)
売上高	2,295,000	4,271,100	4,887,900	4,606,700
売上原価	2,209,000	4,183,900	4,730,500	4,456,300
売上総利益	86,000	87,200	157,400	150,400
販売費及び一般管理費	84,400	152,200	152,200	152,200
営業損益	1,600	▲ 65,000	5,200	▲ 1,800
営業外費用	100	6,500	9,200	14,200
経常損益	1,500	▲ 71,500	▲ 4,000	▲ 16,000
税引前当期純損益	1,500	▲ 71,500	▲ 4,000	▲ 16,000

【資金残高】

(単位：千円)

科 目	2017 年度 見込み額 (第 1 期)	2018 年度 計画額 (第 2 期)	2019 年度 計画額 (第 3 期)	2020 年度 計画額 (第 4 期)
現金及び預金	706,800	1,030,000	1,313,400	1,626,500